

## 中小事業場分科会

- 14:50
- ④ **ストレスチェック自社実施の利点と今後の課題～メンタルヘルス対策促進員の立場から～**  
(独)労働者健康安全機構 静岡産業保健総合支援センター  
メンタルヘルス対策促進員  
**杉山 淑子**
- (15:10～15:20 休憩) 15:20
- ⑤ **当社の安全衛生管理について**  
小田原ガス㈱  
総務部 執行役員総務部長  
**海野 和久**
- 15:40
- ⑥ **神奈川県労働安全衛生協会における衛生管理担当者への支援活動**  
(公社)神奈川県労働安全衛生協会  
衛生管理推進委員会 委員長(椎野労働衛生コンサルタント事務所)  
**椎野 恭司**
- 16:00
- ⑦ **わが社の安全衛生活動**  
日吉電装㈱  
代表取締役社長  
**仁上 洋一郎**
- 16:20

ストレスチェック外部委託業者の選定に苦慮、あるいは経費節減上の理由でストレスチェックの自社実施を決めた中小規模事業所10社に対する訪問支援活動の概要を報告する。制度上の問題点や課題も見えてきたなか、収穫は職場改善の糸口となる多面的な集団分析ができたことであった。

当社で実施している「事業場におけるリスクアセスメント」の導入に向けての準備から実践までの経緯と、工事現場において、当社と協力店が一体となって実施している安全パトロールや安全研修会を主とした「工事現場における安全衛生活動」の内容について発表する。

神奈川県内の衛生管理担当者のレベル向上を目的として、神奈川県労働安全衛生協会では、衛生管理推進委員会を設置している。当委員会では、経験の浅い安全衛生担当者を中心に、専門知識や具体的な活動事例に関する情報提供と、担当者同士の交流を図るための活動を継続的に展開している。

当事業場は、労働者数が50名未満のため安全委員会、衛生委員会の設置安全管理者、衛生管理者選任の義務はないが、50名以上の事業場に準じた活動をしている。最初から完璧は求めずに行えることから即実行することを心がけ、中小企業ならではの手作りの対策をしている。

## 中小事業場分科会 会場ロビーにて 「職場の安全と健康 無料相談会」開催!

## 海外安全衛生分科会

- 会場** ホテルメルパルク横浜 2階 エトワール/シェリー [横浜市中区山下町16]  
**交通** みなとみらい線「元町・中華街駅」4番出口 徒歩1分
- 10月19日(金) プログラム(9:00開場) .....**

- 9:30
- ① **海外技能実習生の安全教育と安全意識向上への取り組み**  
日産自動車(株)相模原部品センター  
サービス部品物流部 商品管理グループ 作業指導員  
**廣瀬 政明**
- 9:50
- ② **海外工事における「分かりやすく、シンプルに」の安全管理について**  
(株)ユアテック  
海外事業部付 ユアテックベトナム 設備部長  
**大竹 俊**
- 10:10

2016年3月にフィリピンからの海外技能実習生入職後の安全教育および日ごろの安全活動を行っていくうえで、習慣の違いや言語の壁を乗り越えてKYT訓練、体感訓練を実施して、安全意識の向上を図ってきた。プロパーと海外実習生とが同じレベルで安全活動を行ってきた事例を紹介する。

途上国における建設業の安全管理は一筋縄ではない。これは、日本に比べ安全に対する文化の歴史が浅く、建設業界や社会全体が安全より生産性を優先するあまり、安全意識が低下するためである。弊社がこれまで経験してきた途上国での安全管理の苦労と成果について紹介する。

## 海外安全衛生分科会

- 10:10
- ③ **北米安全スタッフと協業した「北米流異常処置者指名制度」の構築・展開**  
(株)デンソー  
安全衛生環境部 グループ統括室 担当係長  
**中村 義哉**
- (10:30～10:40 休憩) 10:40
- 事例報告** **東南アジアにて求められている日系企業向けデータ駆動型ヘルスケアソリューション事例**  
Marimo5 Co., Ltd.  
代表取締役社長  
**大和 茂**
- 特別報告** **中災防の国際関係事業及びAPOSHO年次会議の日本開催について**  
中央労働災害防止協会  
技術支援部 国際センター 専門役  
**川島 孝徳**
- 11:10
- 事例報告** **海外派遣労働者の心身の健康管理**  
産業医科大学 産業生態科学研究所  
精神保健学研究室 助教  
**日野 亜弥子**
- 11:30
- 12:00

グローバルで異常処置災害抑止を図ってきたが、北米で他地域に比べ約3倍の災害が発生していた。そこで北米特有の文化(転職、人材育成等)を考慮した、北米流の異常処置の安全確保(教育・指名制度)に現地スタッフと連携して取り組み、新制度を構築した。

肥満や糖尿病などの生活習慣病が増え続けているタイにおいて職場健康づくりプログラムを開発・提供する講師より、在タイ日系企業の従業員向け食生活改善指導事例や海外赴任者の食生活の問題等を中心に、タイにおいて浸透しつつある新しい職場健康づくりについて紹介する。

中災防で実施している海外の情報提供事業、日系企業支援事業(アジア安全衛生SAKURAプロジェクト)、JICAを通じた国際協力事業、2021年のAPOSHO(アジア太平洋労働安全衛生機構)年次会合の日本開催等について説明する。

グローバル化の進展に伴い、海外派遣労働者は年々増加している。海外派遣労働者には、地域特有の健康問題が存在するため、現地の状況をよく理解した上での健康管理が求められる。海外派遣労働者の心身の健康管理について、企業での取り組みを交えて紹介する。

## 第三次産業分科会

- 会場** ホテルメルパルク横浜 2階 エトワール/シェリー [横浜市中区山下町16]  
**交通** みなとみらい線「元町・中華街駅」4番出口 徒歩1分

### 10月19日(金) プログラム(13:00開始) .....

- 13:00
- ① **小集団サークル活動「見える化活動」の取り組み**  
日通商事(株) ロジスティクス・サポート事業部  
品質管理部 担当部長  
**岡 克彦**
- 13:20
- ② **ノーリフトポリシーによる労働環境の改善と現場への浸透について**  
社会福祉法人 伸こう福祉会  
特別養護老人ホーム クロスハート栄・横浜 介護主任  
**館田 有芽野**
- 13:40
- ③ **職員を守りたい! 介護老人保健施設における腰痛予防対策**  
介護老人保健施設 運根ひまわり苑  
介護課 介護主任  
**関口 亮太**
- 14:00

ある年度に労働災害が14件と倍増し、緊急事態として事業部全体で対策に取り組むこととなった。小集団活動が最適だが、経営トップから与えられた期限は2年。KY・RAを教育する時間はない。そこで、5Sに取り組む小集団を各拠点に作り、翌年安全の取り組みをまとめた「見える化活動」を追加、定着させることにした。

介護スタッフの高齢化が進み、現場では腰痛による移乗介助ができない高齢職員が増加傾向にある。個人の力量に頼らない、高齢職員でもできる介護が必要となり、2016年から日本ノーリフト協会の研修を開始した。法人全体で浸透を図るためトレーナーを育成し、現場に広めている。

尿意はあるが立位を取ることができない方をトイレへ座らせるために、抱え上げる介助を続けていた。腰痛に悩むなか、厚労省の腰痛予防対策指針で人力での抱え上げを行わないと示されていることを知る。福祉用具の活用や作業姿勢の改善で腰痛軽減の成果を得られた。